

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511

国府地区自主防災連合会の 結成と活動について

国府地区自主防災連合会
会長 戸井田龍行

一、災害の発生と自助・共助
フィリピン海プレートが
ユーラシアプレートの下に潜

り込む南海トラフを震源域とする東海地震、東南海地震、南海地震の三つが連動して発生する「南海トラフ巨大地震」はマグニチュードは八以上で三十年以内に発生する確率は七十%程度とされています。



徳島市民総合防災訓練の様子

地震とそれに伴う津波や台風による集中豪雨などによって災害が発生した場合、その災害の規模が大きければ大きいほど支援活動を行う行政機関も被災する可能性が高いこと、

また、水道・電気・都市ガス・交通・通信といったライフラインが途絶することにより救援部隊の被災地到着や、組織的な救援活動に時間を要することになります。

これに対応するためには、地域防災を担う主体は住民自身であり、「自分の命は自分で守る、自分たちのまちは自分たちで守る」という「自助と共助に基づく地域防災力の充実と強化」が必要となりますが、その機能を担うのが地域自主防災組織であり、その連合体としての地区防災連合組織です。

二、地区自主防災連合会の結成

国府コミュニティ協議会では、地区自主防災連合組織の結成に取り組んできましたが、国府小学校区の二十五の自主防災会で組織する国府地区自主防災連合会が平成二十六年七月二十七日に結成され、「自主防災組織充実・活性化事業補助金交付制度」の助成により、①防災に関する知識の普及、②地震等に対する予防対策、③地震等の発生時における情報収集と伝達、避難誘導、初期消火、救出援護、給食給

水などの相互応援とこれに関する訓練と研修、④防災資機材の整備と備蓄等の事業を行うこととしていきます。

三、平成二十六年年度の活動

南海トラフを震源とする巨大地震が発生したことを想定した「徳島市民総合防災訓練」を平成二十六年九月二十八日に徳島市、国府



野島断層保存館への視察

参加者が、県建築士会、市消防局、徳島西医師会の指導により、四グループに分かれて訓練しました。

四、平成二十七年年度の活動

「自主防災組織充実・活性化事業補助金交付制度」を活用し、防災資機材整備費補助金による、初期消火用機材、救出・救援用機材、避難誘導用機材等の整備や、訓練・啓発活動費補助金による、連合会および各自自主防災会単位で行う防災訓練や啓発活動の充実・強化を図ることとしています。また、災害時要援護者の支援について、関係機関と協議し、体制の整備を図ることとしています。

(国府コミュニティ協議会)

世界に伝えたい！ 阿波人形浄瑠璃の魅力

阿波人形浄瑠璃平成座

座長 藤本 宗子



第5回プロジェクト未来遺産登録証伝達式

私たち「阿波人形浄瑠璃平成座」は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の第五回「プロジェクト未来遺産」に応募しましたところ、厳しい審査を経て、二〇一三年十二月に登録されました。その伝達式は、二〇一四年二月一日、徳島県立十郎兵衛屋敷にて、飯泉徳島県知事、佐野県教育長、石井徳島市教育長、増金川内まちづくり協議会会長はじめ、多数のご来賓をお迎えし、盛大に催すことができました。

「未来へ伝承すべき遺産」として、百年後の子どもたちに地域の文化や自然遺産を残し、伝えていくことを目的とするこの「未来遺産運動」です。私たちの長年にわたる県内外での小・中学校への出前教室や、川内北小学校、川内南小学校、藍住東小学校のお子さんで作る子どもクラブを結成。四つの小学校で大夫教室を開き、国文祭や阿波人形浄瑠璃フェスティバルに出演して参りました。昨年二月には、第十四回地域伝統芸能まつり（東京・渋谷NHKホール、テーマは『芽生え』）。私たちの指導している川内・藍住子



ども人形浄瑠璃クラブの子どもたちとともに徳島県代表として出演。

また、徳島市老人クラブ連合会でも、人形浄瑠璃教室を開催。五十の手習いと申しますが、七十、八十の手習いですが、がんばってくださいる老人会の皆さまと、市老連の総会で初舞台。平成座の座員は、ボランティア精神に溢れ、毎回、人形や道具を持ち込み練習するので、その苦労をいと

わず、笑顔で親切に指導をしています。本年三月二十九日には、昨年「出前教室」などご指導させていただきました小学校四校にもご出演いただき、ユネスコ未来遺産登録一周年記念公演を開催。三百四十五人のお客様にご覧いただきました。

「地方創生」の時代、今こそ、お鶴、お弓、十郎兵衛のふる里、川内町。「川内町が生んだ四つの歌」と共に町民が心ひとつとなって、伝えていきたいものです。また、二〇二〇年のオリンピックに向けて、二〇〇九年のブラジル公演での経験を活かし、徳島が世界に誇る阿波人形浄瑠璃の魅力を世界に伝えていくために、グローバルな人材育成を目指し、座員一同、一生懸命に取り組んで参ります。ご指導、ご支援をどうかよろしくお願いいたします。

(川内まちづくり協議会)

住・城こども連と 住吉音頭

住吉・城東地区町づくり協議会
会長 浜田 耕市

住吉・城東コミセンが完成した翌年、平成二十二年に住・城こども連を発足させて今年で六年目になりました。以来、毎年四十人から五十人くらいの子どもたちが参加しています。

新学期になると地区の小学校、幼稚園、保育園に声をかけ応募、五月から練習の開始です。練習初日、今年はどういう子が集まるのか、去年参加していた子もいるし初めての子もいる。指導をお願いしている地元の黒川義さん（えびす連副連長）と二人で、会

場へ入ってくる子どもをじつとみて、次に顔を見合わせて、今年は昨年より一段と小さい子が多い、これは大変だぞ、と思わずつぶやいていました。集合、準備運動、そして基本の練習に、「あ、そっちの方向じゃないよ。」と、悪戦苦闘が始まります。でも一回目、二回目と少しずつ形になっていきます。子どもたちも保護者も、笑顔で時間が過ぎていきます。でもなかなかうまくはいきません。そんな時、私と黒川さんが交わす言葉は、「かわいいから多少のことは、大目に見てもらおう」です。

最近、出演機会が増えてきています。地区の福祉まつり、コミセン祭り、商店街のお祭りだけでなく、阿波銀ホールやふれあい健康館でのイベント、老健施設からの依頼もあり、大変ですが嬉しい悲鳴でもあります。そして、ありがたいことにそのイベントの際には、いつも地元の鳴り物さんを松下宋次郎さん（娯茶平連）が率いて演奏にきてくれています。

今年も十二月の解団式まで楽しみながら、そして地域の活性化に少しでも貢献できるように応援を続けていきます。

また、今年、もう一つの大きな事業、住吉音頭の復活に取り組んでいます。

今から五十年くらい前に存在したという、住吉音頭を何とか復活させたいという地元の声が高まり、いろいろな人に声を



住・城こども連



住吉音頭

で地域の活性化に少しでも貢献できるように応援を続けていきます。

また、今年、もう一つの大きな事業、住吉音頭の復活に取り組んでいます。

今から五十年くらい前に存在したという、住吉音頭を何とか復活させたいという地元の声が高まり、いろいろな人に声を

かけ手がかりを探したところ、残っていないといわれていた楽譜が偶然発見され、それをきっかけに、歌をCDに吹き込み、そして振付を依頼し、発表会、練習会、衣装決め、と急ピッチで進めている最中です。「住吉音頭を楽しみむ会」を発会し、昔のように、地域の人たちが一体となって踊れるように、これからは正念場です。住吉音頭の詳しいことは、また次に機会があればお話しさせていただきますと思います。

山口県防府市自治会 連合会視察受入

徳島市コミュニティ連絡協議会事務局
平成二十七年二月二十日（金）、山口県防府市自治会連合会四十五名の方が、先進地視察研修として津田コミュニティセンターに来られました。防災における徳島市の各協議会の取り組みについて情報交流がしたいとのことで、徳島市コミュニティ連絡協議会より役員六名、市民協働課職員二名、危機管理課職員一名が出席しました。

始めに、徳島市の自主防災会の活動について、危機管理課の森課長補佐より説明がありました。終了予定時刻を過ぎるほど熱心な質疑応答があり、有意義な情報交流ができました。



視察研修の様子

！地域力の向上を 目ざした 運営と活動を！

多家良中央コミュニティ協議会
会長 開 寛



八多五滝

多家良中央コミュニティ協議会が設立（平成十年四月）され、十七年目を迎えています。

「雲にそびゆる中津峰、流れも清き勝浦川」と宮井小学校校歌に歌われているように、豊かな自然に恵まれた町。東山溪自然公園内には八多の五滝、重要文化財に指定された観音様が祭られた中津峰山如意輪寺、伝統芸能が引き継が



如意輪寺

れる犬飼の農村舞台など文化的潤いがいっぱい人口二百二十二人（平成二十七年四月一日現在）の小さな町であります。

当地は先祖代々からの土地に、果樹園芸、ハウス園芸、稲作を基幹産業として繁栄してきた農村地帯であり、今でも三世代、二世代家族構成の世帯も多く、昔から近隣同士の絆が深く結ばれ、平穏な生活が営まれています。

しかし、近年では、若者たちの価値観の多様化とともに、農業離れが進み、後継者不足、少子高齢化に伴って人口構成のアンバランスが生じて、地域の良き風習や伝統の伝達が難しくなり、地域力の低下が懸念されます。

このような中での当協議会が果たす役割は、地域にとって非常に大きな意義があります。

そこで、地域力の回復、向



犬飼農村舞台

上を図る手段として、連帯意識を高めるために、住民相互のふれ合う活動を展開します。例えば、子供会と老人会を交えた交流の場所作りを行う、コミセン祭りの開催などは、老若男女が集まり、大きな成果が挙がるでしょう。

最近では、異常気象といわれる記録的な集中豪雨が全国各地で発生し、大きな被害が報道されていますが、集落の背後に地滑り層や、急傾斜地が多数存在する当地でも、同様の山崩れや、土砂災害が起きる心配があります。

日頃から、危険個所の点検や、住民の救護、避難訓練などを計画的に実施することによって、「安心の町づくり」の礎となるでしょう。

コミセンで、集い、学び、活動する中で心の結びびや人情の交歓など、受講生を魅了して止まぬ諸要素が趣味教養・文化活動にはあります。心振るわす感動や溢れる共感を生む、多彩で魅力的なカリスマ講師群像の中から三女性を紹介します。

花の教養文化活動

きらめく女性講師

勝占中部コミュニティ協議会

高齢化社会が進む中、独居老人家庭の見守りや、問題解決に対応する活動と、地域の福祉の向上を計る企画、運営に心がけ、地域力の向上と、この地に住んで良かったと感じる町、人情味豊かな地域社



春藤宗美講師

春藤講師の周りには、和やかで心安らぐ雰囲気がついでも漂っています。「日常の何気ない仕草に、お茶の心が活きている」そんな生活文化と

会を創造することがコミュニティ協議会の一歩の役割であると考え、これからの運営、活動を展開していきたいと思えますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

一、茶道講座 子ども茶道教室
春藤宗美講師
茶道裏千家淡交会の支部幹事長の要職を務め、「超」の付く多忙な毎日の中でも地元コミセンの茶道教室は最優先開館以来の指導を続けています。

しての茶道を心がけていること。子ども茶会から茶道講座まで、コミセン茶室は清澄で楽しい雰囲気にも包まれています。

二、「童謡を歌う会」「大正琴」

寺西員代講師

にこやかで親しみやすい人柄が慕われて、愛車のジムニーを駆使し、県内各地へ指導に出かけています。地元的女性指導者、故田中八重先生との出会いがきっかけで、童謡サークル「かじか」や「大正琴」愛好者の指導を続けています。『ゆつくり・はつきり・にっこり』を大切にされた指導法は大人気で、最年長の受講生は九十歳を超えています。「皆さんと一緒に笑って」



寺西員代講師

ているときが一番の幸せ」寺西講師の優しい目が微笑みまします。

三、「コミュニティ広報紙」かつら

松島絹代編集長

季刊の「かつら」は今夏で第八十八号を数えます。記事の依頼から取材や編集と、仕事量も大変。それを定評のある情熱と活力でやり抜いているのが松島編集長です。誠実で人好きな人間性が生き方を支えています。「かつら」は豊かな紙面構成が評価され、昨年度は県内で最高位の優秀賞、全国では奨励賞を受賞。「少しでも地域に元氣と笑顔が広がってもらえれば」明るく語りかける笑顔が輝いています。



松島絹代編集長

昭和おはなし隊

ふじなびやうりまわ

昭和コミュニティ協議会

庄野 周代

昭和おはなし隊が誕生して今年で十年目となりました。

結成当時は、「近頃の子どもたちは、日本の昔話をあまり知らないね。」ということと、歌のある昔話を中心とした紙芝居を手作りしよう、と集まった仲間たちで、わいわいと楽しく活動してきました。昨年、新コミセン開設に伴い、昭和地区にも待望の児童館が併設され、昭和おはなし隊の活動以外にも、子どもたちとの交流が活発になされております。

私たちの活動としては、夏休み中に開かれる「おぼけ屋敷」でのイベントで、こわい話を讀んだり、地域の幼稚園、保育所の園児たち約百人をコミセンに招待し、就学児前の子どもたちの交流の場になればと、毎年秋に開く「子どもおはなし会」をがんばって続けてきました。



さてさて、今年は何をしようかと、あれこれ考えながら、みんなで案を練っていく。手作りの紙芝居を作り、舞台の装置や衣装を手作りし、お話し会にちなんだお土産を考えながら、今回のプログラムを作成していく。その過程がとても楽しく、全員で知恵を出し合い、この活動に携われることに喜びを感じております。ちなみに、九回目の「こどもお楽しみ会」では、次のよ



うなプログラムで、子どもたちとの楽しい一時を過ごしました。

- ・ 腹話術
 - ・ これだれの「口」
 - ・ 絵に描かれた口だけで動物の名前を当てるクイズ
 - ・ まるまるまる
 - ・ ○○○のおはなし
 - ・ 手作り紙芝居
 - ・ ようかい体操第一
 - ・ 全員で体操
 - ・ 三びきのやぎのがらがらどん
 - ・ 工夫を凝らした舞台を使って物語を上演
 - ・ 全員で歌をうたう
 - ・ 「とんぼのめがね」
 - ・ 「さんぽ」
 - ・ おみやげ
 - ・ ストローを使った手作り
 - ・ とんぼをお持ち帰り
- 以上

シリーズ 名所・旧跡

徳島市指定天然記念物

かすが おお くす 春日の大樟



くすくん 入田小学校4年 板東彩知

入田町まちづくり協議会

入田町は、面積が約十一・八平方キロメートルの小盆地であります。建治寺や建治の滝のある竜王山を南に、東西に鮎喰川が貫流して、自然環境に恵まれた町です。

その鮎喰川に架かる入田春日橋の南詰め近くに、一本の大楠があります。樹勢はすこぶる盛んで、東西三十六メートル、



南北三十八メートルと大きく張った枝葉が見事です。地上高一・三メートルにおける幹回りは九・三メートルあり、県内のクスノキとしては幹回りの大きさが十四位になる巨樹であります。樹高は二十二・七メートルで、樹幹の基部はほぼ円形で空洞はありません。主幹は高さ四メートルのところから多数に枝分かれし、それより上に幹はなく、クスノキの典型的な樹形を示しています。大地にどっかと根を下ろし、約四百年の風雪に耐えた姿は、無言のうちによりに大きな力を与えてくれています。一五八二(天正十)年、すぐ近くの一宮城が長宗我部元親によって滅ぼされましたが、このクスノキはその際謀殺された城主長門守成祐の家臣、近藤義太衛門が再興を誓つ



陶板絵「樟の木と子供たち」

て植えたものといわれています。

入田町春日の地名が示すように、昔ここに春日神社がありました。おそらく藤原氏ゆかりの豪族が、この地に祭つたと考えられます。クスノキは境内の神木にもなっていました。春日神社は、蜂須賀家正が阿波へ封ぜられるとともに、入田町から現在の眉山大滝山のふもとに移つたと伝えられ、元県社春日神社となつたため、現在は境内に春日神社跡の石柱とクスノキが残されたものであります。現在は、徳島市指定天然記念物となっています(昭和三十八年指定)。入田コミセン前道路沿いのコンクリート壁面に、陶板絵



で「樟の木と子供たち」という題で、平成六年度の入田小学校下学年児童の共同作品として設置されています。クスノキの巨樹は、子供たちの格好の遊び場となっていました。クスノキで根付いた頑張る力で、これから未来に向かって元気に笑顔で羽ばたいていく様子が表されています。また、入田活性化のため「入田音頭」が本年一月に完成しましたが、この曲の歌詞の中には「春日巨大樹 くすのきさまの 仰ぐ枝振り 清める大地」と歌う言葉が入っています、大楠の特徴が表されています。参考資料：「徳島市の文化財」

編集後記

戦後七十年、空爆で廃墟と化した徳島市。市民の努力で名実共に立派に再興されてきました。

国府地区は、やがてやってくる「南海トラフ巨大地震」に対応するため、各地域の自主防災組織を連合し、地区防災連合組織の結成に取り組み、その充実と活性化事業を展開しています。

川内地区は「阿波人形浄瑠璃平成座」の活躍で、人形浄瑠璃の魅力を世界に発信し、日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産登録」の榮に輝きました。市民の誇りです。同じく阿波おどりを地域活動の柱にと「住・城・こども連」の活躍も見事です。如意輪寺や犬飼農村舞台、五滝と豊かな文化、自然をもつ多家良の町づくりも期待大です。「きらめく女性講師」に恵まれた勝占中部もまた、真珠の光を放っています。昭和の工夫した「おはなし隊活動」も見事なものです。

入田の「春日の大樟」には、深い歴史の秘話が込められていたことに目を見開かされました。

(佐藤義忠 記)